

仙台市野草園

日本有数の植物園はこうしてつくられた

野草園は、昭和29年に開園しました



第二次世界大戦後、仙台の野山は荒廃していました。

畑や宅地とするために木々は切られ、身近な自然が失われようとしていたのです。

状況を危惧した東北大学教授 加藤多喜雄は、昭和24年春、仙台市長 岡崎栄松に仙台の自然を守るための助力を要請しました。





昭和24年秋、大年寺
山の一部が仙台市の緑地
になりました。

やや狭いながらも沢や
池があり、変化に富んで
いました。

ここに、東北少年院や
植物愛好家などの協力を
得て野草園は整備されま
した。

昭和29年7月、日本有数の
植物園が開園しました。

現在、半世紀以上も前に植
えられた苗木は大樹となり、
市民が憩う芝生広場に心地よ
い木陰をつくっています。

「杜の都」は、かつての武家
屋敷の屋敷林や寺社林と青葉
山や広瀬川河畔のみどりなど
が一体となり、まち全体がみ
どりに包まれたようすを示す
呼称として明治末期頃から使
われています。

また、江戸時代の仙台藩に
は野山を管理する野守・山守
といった職業もありました。



先人たちが守り
育んできた「杜の
都」のみどりを、
仙台市民共有の宝
として、これから
も大切に引き継い
でいきましょう。

